

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：公衆衛生費 目：食品衛生指導費

事業名 残留農薬等検査機器リース費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 生活衛生課 食品指導係 電話番号：058-272-1111(内3419)

E-mail : c11222@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 19,787 千円 (前年度予算額： 19,787 千円)

<財源内訳>

区分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使 用 料 手数料	財 収 産 入	寄 附 金	そ の 他	県 債	一 般 財 源
前年度	19,787	0	0	0	0	0	0	0	19,787
要求額	19,787	0	0	0	0	0	0	0	19,787
決定額									

2 要求内容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

現在、農産物の残留農薬検査に使用している検査機器に係るリース費

ア 液体クロマトグラフ質量分析計（以下、「LC-MS/MS」という。）

イ ガスクロマトグラフータンデム質量分析計（以下、「GC-MS/MS」という。）

(2) 事業内容

ア LC-MS/MS 令和2年度導入機器リース代（7年リース）

・総事業費：91,150千円

・令和2年度予算実績額：13,018千円

・令和3年度以降の予算措置額：78,132千円（13,022千円/年×6年分）

イ GC-MS/MS 令和3年度導入機器リース代（76か月リース）

・総事業費：42,845千円

・令和3年度予算実績額（4か月分）：2,255千円

・令和4年度以降の予算措置額：40,590千円（6,765千円/年×6年分）

(3) 県負担・補助率の考え方

県が計画的に実施する検査事業であるため全額県で負担

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
使用料及び賃借料	19,787	ア 残留農薬検査機器（LC-MS/MS）リース経費 令和7年度予算措置額分 13,022千円 イ 残留農薬検査機器（GC-MS/MS）リース経費 令和7年度予算措置額分 6,765千円
合計	19,787	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 現有機器の使用頻度（令和5年度実績）

- ア・稼働日数：年間200日
 - ・使用目的：農産物の残留農薬（150検体、95項目/1検体）の分析
- イ・稼働日数：年間200日
 - ・使用目的：農産物及び畜水産物（牛乳）の残留農薬（155検体、1検体につき115項目/農産物、56項目/茶、4項目/牛乳）の分析

(2) LC-MS/MS、GC-MS/MSの特徴

- 残留物質、残留量の確定が正確に出来ることから、判定時間の短縮、再検査の防止、検査結果の信頼性の向上が図られる。
- 1検体当たりの検査時間が短縮されることや妨害物質が多い検体の検査が可能になること、一度に多項目の検査が可能になることから、検査項目数の拡充が図られる。

(3) 残留農薬等に対する消費者の意識

食品の安全性に関するアンケート調査では、依然として、残留農薬等に関する不安感が高く、安全性を確認するための機器の整備は必要である。

実施機関	実施期間	残留農薬等の不安感
生活衛生課	令和6年10月～令和5年12月	65.3%が不安

事業評価調書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

県民の食に対する安心感の向上を図るとともに科学的な根拠に基づいた食品関係業者への監視指導を行うため、県内に流通する食品の検査を実施している。この検査に使用している残留農薬検査機器液体クロマトグラフ質量分析計（LC-MS/MS）を、令和2年度に、残留農薬検査機器ガスクロマトグラフアーチャンデム質量分析計（GC-MS/MS）を、令和3年度に更新を行った。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R6年度 実績	R7年度 目標	R8年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①LC-MS/MS 残留農薬等体制強化事業 (農産物の残留農薬等の検査検体数)	-	150検体	150検体	150検体	150検体	103. 4%
②GC-MS/MS 残留農薬等体制強化事業 (農産物の残留農薬等の検査検体数)	-	155検体	150検体	150検体	150検体	103. 3%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	① 流通段階の農産物等 116 検体の残留農薬検査を実施した。そのうち37検体から、計 69 農薬が検出されたが、残留基準を超過する検体はなかった。 ② 流通段階の農産物等 120 検体の残留農薬検査を実施した。そのうち 37 検体から、計 69 農薬が検出されたが、残留基準を超過する検体はなかった。 新型コロナウイルス感染症第7波における保健所及び保健環境研究所の業務ひつ迫を受け、令和4年7月下旬～9月上旬の収去業務を中止したため目標を達成することができなかつた。
	指標① 目標：156検体 実績：116検体 達成率：74.4 %
	指標② 目標：160検体 実績：120検体 達成率：75.0 %
令和5年度	① 流通段階の農産物等 163検体の残留農薬検査を実施した。そのうち71検体から、計 131 農薬が検出された。 ② 流通段階の農産物等 164検体の残留農薬検査を実施した。そのうち71検体から、計 131 農薬が検出された。 そのうち3検体から基準値を超える殺虫剤が検出されたため、管轄する保健所等に情報提供を行い、生産者、輸入者に対して指導及び同一ロットの回収等が行われた。
	指標① 目標：156検体 実績：163検体 達成率：104.5 %
	指標② 目標：160検体 実績：164検体 達成率：102.5 %

令和 6 年 度	①流通段階の農産物 150検体の残留農薬検査を実施した。そのうち 47 検体から、計 89 農薬が検出された。
	②流通段階の農産物等 155 検体の残留農薬検査を実施した。そのうち 47 検体から、計 89 農薬が検出されたが、残留基準を超過する検体はなかった。
	指標① 目標：145検体 実績：150検体 達成率：103.4 %
	指標② 目標：150検体 実績：155件体 達成率：103.3 %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断)

3：増加している 2：横ばい 1：減少している 0：ほとんどない

(評価) 2	食品安全対策モニター等を対象にした「食品の安全性に関するアンケート調査(生活衛生課 令和6年10月～令和6年12月実施)」の結果、残留農薬は65.3%が不安と回答しており、食品の検査を実施する本事業の必要性は高いと考えられる。
-----------	---

・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか)

3：期待以上の成果あり
2：期待どおりの成果あり
1：期待どおりの成果が得られていない
0：ほとんど成果が得られていない

(評価) 2	令和6年度の検査の結果、使用基準超過はなかった。継続して検査を実施し、科学的な根拠に基づいた食品関係業者への監視指導を行うことが、県民の食に対する安心感の向上に寄与していると考えられる。
-----------	---

・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか)

2：上がっている 1：横ばい 0：下がっている

(評価) 1	効率化を図るため、本事業による検査結果の実績、検疫所や他の自治体における違反事例などを考慮し、検査検体数、検査項目などを検討したうえで、効果的な検査を行っている。
-----------	---

(今後の課題)

・事業が直面する課題や改善が必要な事項

検査できる検体数等には限りがあることから、検査検体数、検査項目を常に検討しながら、効果的な検査を行う必要がある。

(次年度の方向性)

・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか

前述の「食品の安全性に関するアンケート調査」から、食品の検査に関するニーズは高く、本事業の必要性は高いと考えられ、検疫所や他の自治体における違反事例などを考慮し、継続して実施していく。

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【○○課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	